

税金の使い道を知る

札幌市立中央中学校 二年 池田 絢翔

最近は様々なものが値上げされている。たまに店に買い物に行くと、それを実感する。店ではパンや乳製品、お菓子など、多くのものが値上げされている。実際、二〇二二年は再値上げも含めて二万八二二品目もの食品が値上げされ、二〇二三年はそれを上回る見込みだという。また、食品以外にも電気やガスの料金、家電などが値上げされている。

なぜ、こんなに多くの値上げがされたのか。僕はそう思い、調べてみることにした。

原因は主に、原材料や燃料の価格高騰と円安の進行だという。コロナ禍で落ち込んだ経済の回復によって急に高まった需要に供給が追いつかなかったことや、ロシアからの化石燃料の供給が減ったことが影響した。

こうした物価高の対策には、税金が使われているという。二〇二三年度予算では物価高と新型コロナ対策で国の予算の三・五％に当たる四兆円の税金が「予備費」として用意されている。予備費とは政府の判断だけで使い道を決められる予算のことだ。

具体的には、地方への交付金、低所得者世帯への給付金などに使われているという。普段、納めている税金がこうしたときにも使われていると知り、良い使い道だと思った。

ただ、物価高の影響を受けているのは低所得者だけではないはずだ。民間の調査会社の試算によると、物価高によって二〇二二年度の家計の負担は約九万六〇〇〇円増えたという。厚生労働省の調査によると低所得者世帯以外の世帯の数は約三九二四万世帯だ。よって、低所得者以外の全世帯の物価高による負担は単純計算で前年度に比べ約三兆七六七〇億円増えたことになる。僕はできれば低所得者以外にも補助をしてほしいと思うが、物価高対策に使える予算が四兆円で、既に交付金や給付金としてその一部を使っていることも考えると、この金額を補助しようとするのは今の予備費の予算だけでは難しい。しかし、今までにコロナ対策で使われた税金一二兆円余のうち、九割以上が具体的な使い道が明らかになっていないことなど、余分に使っている可能性がある税金があるという。そこで、そうした税金を先程の物価高対策などに使えば、もっと有効な使い方になると思った。

税金は正しい使い方をすれば、今の生活だけでなく未来の生活への安心をつくることができる。国民のほとんどが納めているものだからこそ、国民の一人一人がその使い道を知るべきだと思う。一方でせつかく納めた税金が何に使われているか分からない、ということになれば国民の理解を得られないことは勿論、税金の無駄遣いにもつながる。ただ、それが分かるようになれば無駄遣いを生みずらに有効に使えるはずだ。

僕は国民の一人一人が、納めた税金の使い道を知ろうとし、それを知ることができ未来であってほしいと思う。そのためにもいずれ納税者になる僕も、税金の使い道についてもっと知っていききたい。